

第5学年 社会科 授業構想シート

授業者 中山 和幸

本実践の主張点	「生産」だけではなく、「消費」のあるべき姿を考えることができるようにすることで、子どもは、食料生産にかかわる問題を自分事と捉えるようになり、自らの消費活動を省察することで、探究の質が高まるだろう。
---------	--

1. 単元名 わたしたちのくらしとこれからの食料生産
2. 5年B組の子ども

	5年B組の子どもは、これまでに、国内では、「安全・安心」「安定供給」「持続可能（環境・資源の保護）」「高品質」「機械化」などの視点を大切にされた食料生産が行われており、そこには、生産者の連携・協力をはじめ、様々な工夫や努力があるということについて共感的に学んでいる。しかし、その一方で社会に実在する食料生産にかかわる諸問題（農業人口の減少、耕作放棄地の増加、食料自給率の低下、地産地消の推進）などの問題については、生産者が抱える問題であり、消費者の自分たちにもかかわりのある問題であると捉え、自分たちも消費者としてできることがあると考える子どもは少ない。
--	---

3. 何ができるようになるか

探究力	・ 社会的事象の見方・考え方を働かせながら、目の前の未知の問題に対して、探究のプロセスをとおして、解決に取り組む資質・能力
省察性	・ 社会的事象の見方・考え方を働かせながら、自らの学びにおいて学びの方法や道筋を調整・改善したり、学びを意味づけたり、学んだことを自己の生活や行動につなげたりする自己効力感に支えられた資質・能力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

	様々な資料や調査活動をとおして得た情報を活用しながら、食料生産をめぐって、行政の様々な工夫や努力があることや国や県が抱えている課題があることを知り、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、これからの食料生産のあり方について生産者、消費者両方の立場から多角的に構想することができる。
--	--

② 教材の価値

	和歌山県では、地産地消の取り組みが推進されている。しかし、「地産地消」には、安全・安心な食材を消費者に提供したり、輸送費を削減したりすることができる等のメリットがある一方で、品揃え（種類）が偏りやすい、供給量が安定しにくい等のデメリットもある。メリットとデメリットがあることは、子どもの社会的事象の見方・考え方を働かせた価値判断を促進することができるだろう。また、デメリットがあることで、それを補うために「県産に限らず、他府県産を含めた広い意味での地産地消を進める必要がある」などといった考えが生まれ、子どもの思考の広がりや促進されることが期待できる。「地産地消」をキーワードに「これからの食料生産」について考えることをとおして、食料生産にかかわる様々な課題は、生産者（大人）だけではなく、自分（たち）を含む消費者にもかかわりがあるものであり、国内・県内の持続可能な食料生産を進めていくために、消費は個人の自由であるからこそ、消費者として、エシカルな視点をもちながら、自分（たち）にできることをする必要があるという子どもの見方・考え方が育まれることを期待する。
--	--

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主: 主体 協: 協働 活: 活用	省察性を育む 気: 気付く 決: 決める 動: 動く
<p>主 子どもの未知と既知のずれを生かした資料提示や発問を工夫し、子どもの興味・関心を掻き立てることができるようにする。</p> <p>協 プロジェクト型の学習にすることで、目的を共有し、子どもが協働して学ぶことができるようにする。</p> <p>活 パフォーマンス課題の性質を含んだ学習問題を設定し、既習を活用した問題解決を進めることができるようにする。</p>	<p>気 子どもの未知と既知のずれや目的と活動のずれに気づかせる資料提示、発問、子ども同士の対話活動を工夫することで、子どもが自らの学びの障壁となる「壁」に当たっていることを自覚し、自然と自らの考えやこれまでの学びを省察することができるようにする。</p> <p>動 振り返りの場の設定や教師による価値づけを行い、子どもが学びの意義を実感できるようにする。</p>

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全9時間） 本時5/9</p> <p>一次 食料生産にかかわる問題と行政の取り組みを知ろう。（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食料自給率」について考えよう。①（知） ・海草振興局の方から和歌山県が進めている「地産地消」の取り組みを聞こう。②（知） ・学習問題を立てよう。③（主） <p>二次 「地産地消」の実現に向け、わたしたちにできることを考えよう。（4時間+家庭学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族にインタビューして、我が家の「地消」の実態を調べよう。※家庭学習 ・家の「地消」の実態から、「地産地消」が進まない原因について考えよう。④（思） ・「わたしたちの消費」について考えよう。⑤（思） ※本時 ・「わたしたちの消費」について家族会議を開こう。※家庭学習 ・家族会議の結果をもとに、「地産」について考えよう。（4）⑥（思） ・海草振興局の方と一緒に「地産地消」について考えよう。⑦（主） <p>三次 家族に「地産地消」を進めよう。（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に「地産地消」について伝える準備をしよう。⑧（知） ・家族に「地産地消」について伝えよう。（家庭学習） <p>四次 学びを振り返ろう。（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使って学んだことを振り返ろう。⑨（知）

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料や調査活動から得た情報を活用し、持続可能な食料生産の実現には、生産者だけではなく、消費者がエシカルな視点での消費を心がける必要があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的・歴史的・関係的な視点で、食料生産や消費にかかわる問題の解決策について多角的に考え、話し合い、自分の考えを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料生産や消費にかかわる問題について粘り強く調査し、考えるとともに自分の生活と結び付けて学習を振り返り、考えを広げたり、深めたりしようとしている。

社会科学習指導本時案

授業者 中山 和幸

日時：令和2年12月14日（月）第5校時（13：45～14：30）

対象：第5学年B組 29人

本時の主張点	子どもの見方・考え方を揺さぶる資料を用意し、問題解決の過程において、子どもが自ら資料を活用できるようにすることで、子どもが自ら省察し、多角的な見方・考え方を働かせ、知識を活用・発揮し、よりよい消費の在り方を探ることができるだろう。
--------	---

1. 本時の構想と学習問題について

前時まで、「地産地消」のよさに共感し、「地産地消」を進めるための方策を探ってきた子どもたちが、仲間と協働し、「消費者」が意識すべきよりよい消費の在り方を吟味する時間が本時である。本時は、学習問題『地産地消』を広げるために、わたしたちは、どのような消費を心がける必要があるだろう？」を道標に問題解決に挑む時間である。

本時では、「地産地消」の実現に向けて、「地産地消を進める県の取り組み」や「我が家の地消の実態調査」などをおして得た知識を活用したり、本時ではじめて目にする資料から得た知識を活用したりしながら、個々の見方・考え方を働かせ、よりよい消費の在り方を探っていく。その過程において、子ども自らが、自己の考えを省察し、消費者としてのエシカルな視点をもって、自分（たち）にもできることがあるといった新たな見方・考え方が生まれたり、より多角的な視点に立った知識の活用・発揮が促されたりすることで、子どもの探究の質が高まるようにしたい。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時において子どもが自ら探究の質を高める場面は、「地産地消」の実現に向けて、これまでによいと思っていた消費の在り方を見直し、よりよい消費の在り方を探る場面である。

これまでに、多くの子どもは、「地産地消」をすることで地域の農家を応援することになったり、フードマイレージが減ったりするため、地域の農業の活性化や環境負荷などについて考えたエシカルな消費のよさに気付いている。しかし、「地産地消」を意識するあまり、日本人が外国産のものを消費することで助かっている外国の生産者がいることやそれぞれの国が自国のことを第一に考える消費を進めることでデメリットを感じる人々がいることには気づいていない。そこでロイロノートの資料箱にそれらの気づきが促されるような資料を用意し、資料を自由に子どもが閲覧できるようにしておく。そうすることで、外国の生産者の立場に立って考えることができるようにする。（気付く）

子どもは、よりグローバルな視点でエシカルな消費をする必要があるという見方・考え方を働かせながら、消費の在り方についての概念をよりよいものに再構成し、消費者として自分たちにできることを考える姿を期待する。（決める、動く場面）

3. 本時における評価活動について

本時の終末場面においては、教師による評価及び子どもによる振り返り活動（時間によっては授業外にする）を行いたい。特に、教師による評価では、板書を用いて、子どもの学びの質が変わった点（グローバルな視点でエシカルな消費をする必要があるという見方・考え方を働かせながら、消費の在り方についての概念をよりよいものに再構成し、消費者として自分たちにできることを考えるようになった場面）を価値づけ、「新たな見方・考え方」が生まれ、考えが広がったこと、更新されたことを価値づけることができるようにする。そうすることで、子どもが、多角的な視点に立って問題解決を進め、考えが更新することのよさを実感できようとし、今後もそのような学び方を続けていこうとする意欲や態度につなげたい。

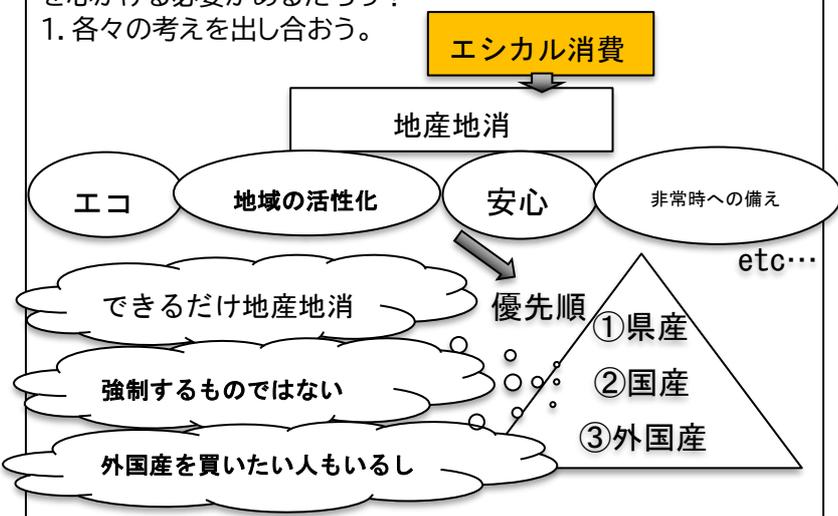
4. 本時の目標

生産者、消費者両方の立場に立ち、個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら、よりよい消費の在り方を多角的に考えることができる。(思・判・表)

5. 本時において働かせたい見方・考え方

<input type="checkbox"/> くらべる	<input checked="" type="checkbox"/> つなげる	<input type="checkbox"/> まとめる	<input type="checkbox"/> わかる	<input type="checkbox"/> 予想する	<input checked="" type="checkbox"/> 見方を変える
-------------------------------	--	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	--

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>学習問題(前時に設定) 身近な人に「地産地消」を広げよう！わたしたちはどのような消費を心がける必要があるだろう？ 1. 各々の考えを出し合おう。</p>  <p>2. 資料を見たり、話し合ったりしながら考えを再構成する。</p> <p style="background-color: yellow;">資料を見ながら、もう一度よりよい消費について考え直そう。</p> <p style="background-color: orange;">県や国だけでなく世界の事を考えた（グローバルな視点での）エシカル消費が必要なかもしれない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分たちができるよりよい消費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ国産・県産をかうようにしたり、日本の食べ物を食べたりして、日本の農家の応援、地域の活性化、環境への影響のことなどを考えて消費をすることが大切。 ・フェアトレード商品は、外国産だけど買いたいな。 <p>◎外国のことも考えた消費を心がけたいけど、地産地消はしていきたいな。消費は個人の自由だし、必ずこうしなければならないという消費があるわけではないけど、エシカルな消費はやっぱり大切。</p> </div> <p>3. 教師による価値づけを行うとともに次時を見通す。 ○家族に今日学んだことを話して、「地産地消家族会議」をしましょう。</p>	<p>授業づくりの「しかけ」</p> <p>①表出された考えのつながりや構造が子どもにとってわかりやすいように、構造的に板書することで、子どもの思考の整理を助ける。(気付く「しかけ」)</p> <p>②ロイロノートの資料箱に問題発見につながる資料を入れておき、子どもが自ら資料を活用することで考えの再構成を行うことができるようにする。(気付く「しかけ」)</p> <p>資料1「地産地消」 資料2「どれを選びますか」 資料3「開発途上国の貧しさをなくそう」 資料4「開発途上国から輸入している物」 資料5「フェアトレード」 資料6「日本と発展途上国の関係」</p> <p>③ペア対話やグループ対話を行い、各々の考えを聞き合うことで、考えを再構成できるようにする。(決める「しかけ」)</p> <p>④問題解決の途中で書く活動を取り入れ、価値判断・意思決定したことを整理できるようにする。(動く「しかけ」)</p> <p>思 生産者、消費者両方の立場に立って、個々の見方・考え方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら、よりよい消費の在り方を多角的に考えることができる。</p> <p>◎教師による価値づけ (動く「しかけ」) ・本時に置いて、見方・考え方に広がりが見られ、考えが更新された場面について板書を用いて解説し、子どもの学び方を価値づけることができるようにする。</p>

各教科・領域において習得した知識の活用・発揮が促され、互いの探究のプロセスが充実していくイメージ

第5学年 社会科 授業者：中山 和幸

①特別活動「食料自給率について考えよう」(2時間)

- ・特別活動「フードマイレージ」の学習において習得した「外国からの輸入が多くなると CO2 排出量等が増え、環境への負荷が高くなり、持続可能な社会につながらない」という知識が社会科の「食料の消費者として自分たちにできることを考える場面」に生かされ、**情報収集のプロセスを充実させる。**
- ・特別活動「エシカル消費」の学習において習得した「一人ひとりの消費者が環境、人や社会、地域のことについて考えることで持続可能な社会の実現につながる」という知識が社会科の「食料の消費者として自分たちにできることを考える場面」に生かされ**情報収集のプロセスを充実させる。**

情

問題解決:「地産地消を上げよう! どのような生産や消費をしていけばよいのだろうか。」

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

探究力

情

情

②CHANGE (総合的な学習の時間)

- 「海洋プラスチックごみ問題を解決しよう」
- ・CHANGE において習得した「生産者は、消費者のニーズに応えるための工夫や努力をし、生産している」という知識が社会科の「よりよい食料生産について考える場面」に生かされ、**情報収集のプロセスを充実させる。**

③家庭科「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方～」

- ・家庭科において習得した「消費者が品質のよい物や環境や資源に配慮した物を選ぶと、そのものはたくさん作られるようになり、世の中に出回るようになる」という知識が社会科の「食料の消費者として自分たちにできることを考える場面」に生かされ、**情報収集のプロセスを充実させる。**